

中丹 米づくり情報

令和元年9月

土づくり編
中丹米振興協議会

土づくり編特別テーマ

来年につながる土づくりにむけて 〈ガス湧き対策特別号〉

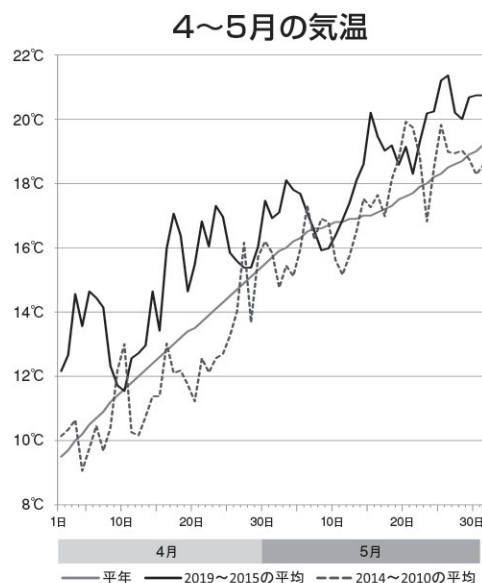
◎中丹管内では「ガス湧き」で大きく収量を落としています。

有害ガスが発生する「ガス湧き」が認められるほ場が増えています。原因には、秋耕が疎かになっているほ場の増加、稲わら等の有機物のすき込みがありますが、右のグラフで示したように、近年の高温傾向も大きく影響しています。

ガス湧きは、湛水状態で地中の稲わらや有機物等が微生物によって急激に分解されることにより発生し、水稻の生育不良につながります。

田植え後すぐに「ガス湧き」が発生すると、活着が遅れ葉色が薄いままの状態が続きます。この結果、十分な分けつ数がとれなくなって減収につながっています。

収量を確保するためには、ガス湧きの対策が必須です。



「ガス湧き」チェック

あなたの田んぼは大丈夫ですか？

- 1 田植え10日後くらいにほ場に入るとブクブクと泡が発生する。
- 2 田の耕深が年々深くなっており、代かきや田植え作業の時に機械が沈みそうになる。
- 3 田の進入口周辺や田の周囲(枕部分)で生育不良が生じることが度々ある。
- 4 田植え後から生育が止まり、分けつが十分に確保できない。

上の症状が一つでも見られたら、田のガス湧きが進行していると考えられます。

◎稲収穫後に取り組むべき対策

田のガス湧き対策は、稲わらを速やかに分解するための一連の土づくり作業が重要です。次年度につながる土づくりに積極的に取り組みましょう。

対策の詳細は裏面